



千葉県支部だより

千葉県支部便り 第27

発行日 令和 7年 12月20日
発行人 中原 秀治
編集人 福嶋 邦夫

<目次>

1. 支部長挨拶
2. 総会実施報告 中原秀治 支部長
3. 千葉県支部見学会実施報告 梅沢晋吾 副支部長
4. ホームページ掲載 [令和7年度 千葉県支部見学会 報告（一社）東京電機大学校友会](#)
HP 参照
5. 支部会員より投稿
 - I. 入学式 安藤志朗 副支部長
 - II. 東京電機大学旭祭 寺澤岳生 幹事
 - III. 鳩山祭参加の埼玉県支部 中原秀治 支部長
6. 編集後記 福嶋 邦夫 会計監査・編集人

*連絡先 お問い合わせ ご意見 ご要望等は
tdu-chiba@tdu-koyu.com 迄メールにてお願い致します。

1. 支部長挨拶 千葉県支部・支部長 中原 秀治



「遠交近攻」若いとき読んだ本にこのような言葉があった。遠国とは仲良くし、近い国は挟み撃ちにして侵攻する。確か秦の戦略ではなかったか。なぜ、このような言葉を思い出したか。それは「令和の時代が近くの人とのコミュニケーションを避け、遠くの方とSMSでつながる」こういう傾向があるように思えるからだ。私の所属する分譲住宅の管理組合で「次の役員をお願いする事ができない、苦痛だ」という声がある。このような組織の役員というのは「義務であり、権利だ」と私は思う。しかし、今の人はSMSで遠くの人とは心を通わすことができても近くの人とは心を通わすことが不得意のようである。

これはおかしいことだと思う。近くの人にこそ考えを述べあって意思疎通を図るべきではあるまいか。翻って支部活動にも当てはまらないかと、私は思う。「お互い話しあい、理解

しあって共に前へ」これはラグビーではないが、「同じ思いで集まり、今を楽しく有意義に過ごそう」そう考えるのが普通だと思うがダメかな。「コスパからタイパ」私たちは歳を重ねすぎたか。

2. 総会実施報告 千葉県支部 支部長 中原 秀治

令和7年の千葉県支部総会は6月21日、東京電機大学千住キャンパスで行われた。

13時からの講演会の余韻も冷めやらない14:45分、安藤副支部長の司会のもと来賓の紹介、そして新たに学校法人・東京電機大学理事長に就任された渡辺貞綱新理事長のあいさつ、校友会の伊奈敬副理事長と続く。それから千葉県支部の総会議事へと進んだ。事業報告、決算報告、令和7年度の事業計画（案）／



予算（案）の承認と審議項目は、原案通り承認された。

ここで承認された「令和7年度事業計画」を見てみよう。

- ・活動に参加したい支部へ
- ・各団体との連携
- ・見学／研修会の実施
- ・支部便りのホームページへの掲載などがある。

また、長い歴史を持つ千葉県支部は、その歴史をまとめた記念誌編纂を企図、人的及

び資金的な面の手当ても考えていく。

（写真右上は挨拶する支部長、写真左下は会計監査結果を報告する大石・会計監査）

▼ 好評だった千葉県支部主催の講演会

令和7年の千葉県支部総会は6月21日、東京電機大学千住キャンパスで行われた。まず、講演会から始まった。12:30から受付を開始したが、中学生から地域の一般の方たちの予想を上回る参加に嬉しい悲鳴。

演題は「人工知能の概要と歴史」。今注目のAIはやはり興味を引くようだ。熱心に聞き入る態度、そして活発な質問。主催者の予想しなかった会場の熱気。



千葉県支部では地域の方々を招待し、電機大に興味を持って頂くような企画というか演題に留意している。電機大に興味を持ってほしい、中高生が入学したい大学と意識してくれる企画、それは難しいがやる価値はあると思う。

講演会が成功裏に終わり、そのあと千葉県支部の総会である。事業報告、決算報告、令和7年度の事業計画(案)／予算(案)の承認と審議項目は、原案通り承認された。しかし、これは始まりであってゴールではない。支部創設60周年いやもっと先を目指し、オールドパワーと若い力を結集して事に当たりたい。

3. 2025 年(令和 7)年 2 月の千葉県支部見学会報告

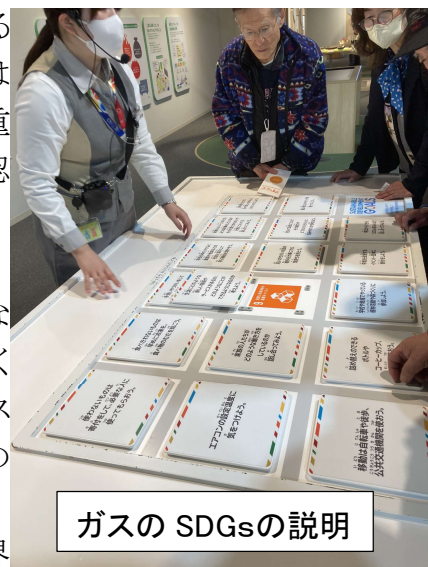
千葉県支部 副支部長 梅沢晋吾

今年の 2 月 14 日は金曜日のバレンタインデー、千葉県支部の見学会でした。



訪れたのは、東京都江東区豊洲にある東京ガスのガスの科学館「がすてな一に」。ガスの役割や特徴を知ることができる体験型の科学館です。館名のように、あらためてガスって何かを考えてみると、日頃から台所や風呂の給湯器でよく使う割にあまり知識を持っていないかもしれません。思い起こすのは、ガスコンロが老朽したり、地震でガスが出なくなった時や、キャンプで使うガスボンベ、プロパンガス、LP ガス等です。使い方によってはガス漏れや爆発など危険な側面もあるので、ガスについてよく知ることは本当は大事です。今回、ガスは重要なライフラインの一つだと再認識しました。

参加人数は、首都圏から参加いただいた 17 名でした。「がすてな一に」は、展示や体験、見学場所は 1 階から 3 階の屋上までにいくつかゾーンがあります。およそ 1 時間半の見学コースを 女性説明スタッフのサポートを受けて 2 班に分かれて回りました。最初は、1 階の「歴史ギャラリー」です。ガスが日本で使われ始めたのは、文明開化は明治 5 年(1872 年)、横浜は馬車道のガス灯だったそうです。世界初は、イギリスのガス灯で江戸時代 1792 年でした。その後、渋沢栄一が東京に「東京瓦斯会社」



(現 東京ガス)を創設したのが明治18年(1885年)、ちょうど今から140年前です。(日露戦争や電機學校ができる前の話です)歴史年表と共に変遷するガス器具の数々を見学しました。

次は、「炎のふしぎギャラリー」です。暗室でガラス張りの中に実際に青白く燃えるガスの炎を見ました。2階に移って、「エネルギーゾーン」では、地中に埋まっているガス配管の実物品を手で触ったり、世界から運ばれてくるガスの



天然ガス掘削の先端部

経路の説明、ガスタンクの中の構造はどんな金属でできているか実物の部品を見たり、液化天然ガスが世界中から船で日本に運ばれてくるルートや家庭まで届けられる仕組みを説明していただきました。



「がすてなーに」の屋上から見るベイエリア

「防災」コーナーでは地震を感知したときの対処法で、マイコンガスメーターの復旧の方法を学びなおしました。全員が参加して楽し



環二通り沿いの「千客万来」を歩く

かったのは、「クイズホール」でした。映画館のようなホールの壇上からスタッフが出す、ガスにまつわるクイズアトラクション。座った椅子の横に付いた回答用ボタンを早押しして合格点数を競います。正面のスクリーン



見学会終了後の懇親会

に出る番号の中から正しい番号ボタンを一斉に押すわけですが、早押しゲームでもあるのでみんな真剣に挑戦しました。まるで子供に戻った気分でした。

最後のゾーンは屋上です。エレベータで屋外に出ると、周りの景観が青空の下で一層映えました。

晴海につながる運河や高層マンション群やその間をぬって走るモノレールが真近に見えました。この屋根は全体が芝生で覆われていて、足に芝生のやわらかい感触が残りました。

「がすてなーに」体験を終えて、めいめい歩いて豊洲市場に隣接した商業施設、「千客万来」に移動しました。ここは沢山の飲食店や温泉施設が集まるところで、各店舗や、足湯(8階の足湯庭園)に入館料はかかりません。参加者の中に足湯を体験した方もいました。私たちの懇親会場は、この中にある鮎と海鮮料理の店でした。大広間で親睦の時間をそれぞれ楽しんだ事だと思います。

豊洲地区を散策して、人工的でもある最新の街作りに驚きました。モノレールや地下鉄が通っていますが、広い場所なのでたくさん歩くことになります。自転車やバスなど移動手段の選択肢が増えるといいなと感じました。天候に恵まれた楽しいベイエリアの見学会でした。

「がすてなーに ガスの科学館」 <https://www.gas-kagakukan.com/>

5. 支部会員より投稿

Ⅰ. 令和7年4月の入学式報告 千葉県支部 副支部長 安藤 志朗

令和7年4月2日に学園の入学式が挙行されました。2000名の新入生おめでとうございます。これから我が母校を盛り立ててくださる皆様方に「人生に幸あれ」とご祈念いたしました。



射場本学長、足が悪くなったのかな？杖を突きながらでした。前加藤理事長もお元気で良かったです。

Ⅱ. 東京電機大学旭祭2025レポート:卒業生も楽しめる学園祭の魅力

2001年修士課程修了
東京電機大学大学院情報通信工学専攻
校友会千葉県支部 寺澤 岳生



今年も東京電機大学の学園祭「旭祭」が、11月1日(土)、2日(日)の2日間、盛大に開催され、活気あふれる雰囲気



あふれる雰囲気がキャンパス全体に広がりました。土

曜日は過ごしやすい気候で、まさに文化祭日和の一日でした。卒業生の皆さまにとっても楽しめる企画が多く、来年も訪れたいような魅力にあふれていました。ここでは、学園祭2025の見どころをいくつかご紹介します。

1. 吹奏楽同好会による屋外生演奏

旭祭の注目イベントの一つが、屋外ステージでの生演奏で、去年はコーストジャズオーケストラ部取材しましたが、今年は吹奏楽同好会の演奏を聴いてきました。現在、約21名の部員が活動しており、メンバーが織りなす迫力ある演奏に多くの来場者が足を止めていました。また、ジブリアニメの音楽も演奏され、幅広い年代が楽しめる演奏でした。普段の忙しい生活から離れ、学園祭ならではの醍醐味を満喫できました。



ご家族で楽しみながら母校を訪れる絶好の機会です。来年はぜひご家族でお越しください。

れば、きっと素敵な思い出になるでしょう。

2. 多彩な出店で楽しむキャンパスプラザ

キャンパスプラザでは、多彩な学生団体による出店が並び、来場者にとって楽しみの一つとなっていました。一部・二部旭祭実行委員会の豚汁やたません(えびせんの器にお好み焼き風の味付けの目玉焼きがトッピング)、コーストジャズオーケストラ部によるベビーカステラなど、豊富なメニューが並んでいました。また、ボランティア部のワッフルや、アツアツもちもちの水餃子入り中



華スープを販売する電大ガールズ、剣道部の竹刀に見立てたチュロスなど、学生さんたちの工夫が詰まった食のブースが並び、訪れる人々を楽しませていました。留学生部によるフルーツポンチドリンクの出店もあり、国際的な雰囲気も感じられました。



3. 親子で楽しめる子供の広場、鉄道研究部

2号館1階では「子供の広場」ブースが設置され、小さなお子さま連れのご家族が射的やヨーヨー釣りなどを楽しんでいました。卒業生の皆さまにとっても、子供と一緒に楽しめるイベントがあるのは大きな魅力ではないでしょうか。親子で一緒に体験できる場が充実しているため、ご家族で楽しみながら母校を訪れる絶好の機会です。来年はぜひご家族でお越しいただければ、きっと素敵な思い出になるでしょう。2号館5階では鉄道研究部が教室を丸ごと使った巨大レイアウト展示・走行があり、ちびっこから大人まで楽しめる内容でした。

4. 理系に興味のある子供たちが大興奮の自動制御研究部

2号館5階では自動制御研究部が毎年夏に開催される「かわさきロボット競技大会」に向けて開発を進めているバトルロボットの展示や、脚と腕を持つロボットを操作しての競技大会さながらのデモや体験会



が催されていました。ロボットたちは大会さながらの激しいバトルを繰り広げており、来場者の目を引いていました。理系に興味を持つお



子さまたちにとって刺激的であり、母校の教育の充実を感じる場面でもありました。お子さまと一緒に訪れ、実際の自動制御を体験することで、学問の楽しさを実感することができたのではないのでしょうか。



5. 知能情報システム研究室、ロボティクス研究室の最新研究とデモンストレーション

1号館10階、12階では、知能情報システム研究室、ロボティクス研究室の各研究室が最新の研究内容を紹介するブースを設けていました。東京電機大学は、ソフトウェアだけでなくハードウェアにも強く、トータルに学べる最先端の環境が整っていると感じました。自分がかつて学んだ大学の後輩たちがどのような研究に取り組んでいるのかを知ることができ、デモンストレーションも交えて最新の技術に触れることができました。卒業生として、母校の成長と専門分野の進化を実感し、誇らしく思いました。ぜひ卒業生の皆さまも、来年は最新の研究成果を見に来て、現役の学生さんたちとの交流を楽しんでみてはいかがでしょうか。



6. 校友会でん☆ふあみの OG カフェ、似顔絵コーナー

出入り自由、申し込み不要、どなたでも参加いただけますが、特に女性の卒業生が常駐して、来場の卒業生ご家族や、在校生を対象に「モヤモヤ・悩み解決」のカフェをオープンしていました。多くの来場者が訪れていました。「でん☆ふあみ」は、「技術は人なり」の精神のもと学んだ私たちが、絶対的な正解がなくても「課題を一步步解決する力」を発揮し、先輩 OB・OG とともに歩むサポート活動として展開されています。毎年恒例の似顔絵コーナーが今年もあり、来場者で賑わってい

ました。



7. 校友会(東京都支部)による心地よい休憩スペース

5号館2階に設けられた校友会 東京都支部の休憩スペースは、レコードの BGM が流れる中、無料のお茶やお菓子が提供される、落ち着いた雰囲気スペースでした。学園祭の賑やかさから少し離れ、ゆったりとした時間を過ごすことができ、卒業生同士で語らうにも最適な場所でした。母校の温かさを感じながら、昔を懐かしむひときは、卒業生にとって特別な楽しみです！



そして、2018年に誕生したとても可愛らしい東京電機大学のキャラクター「デンちゃん」の説明看板もありました。デンちゃんは、東京電機大学出版局が制作したもので、大学の出版物や校友会誌などに登場します。校友会バージョンでは、服や帽子の色が異なる特別仕様の「デンちゃん」も紹介



されていました。

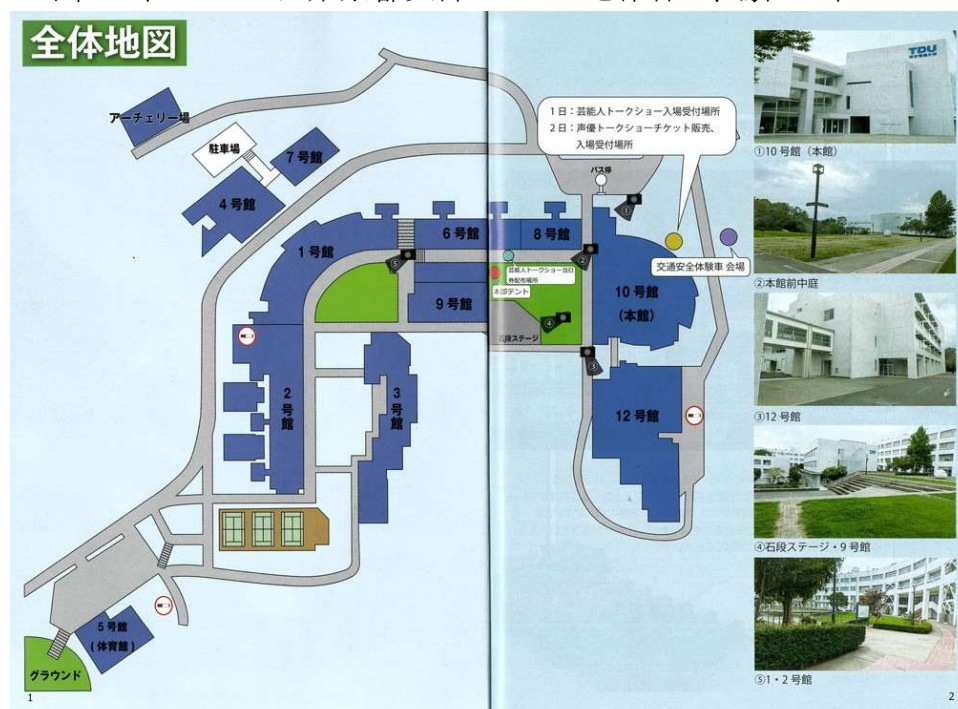
このように、東京電機大学の旭祭には卒業生も楽しめる多彩なプログラムが多数用意されています。お子さまと一緒に楽しむもよし、懐かしい仲間と再会するもよし、最新の技術に触れるもよし。今年訪れた方も、まだ足を運んだことがない方も、ぜひ来年の旭祭にご家族と、あるいはご友人と一緒に訪れて、母校の成長と学生たちの情熱を感じてみてはいかがでしょうか。

Ⅲ. 鳩山祭に参加する埼玉県支部 千葉県支部 支部長 中原秀治



11月1日の千住キャンパス、そして翌2日は鳩山キャンパスを訪れた。目的は何か、それは学園祭における首都圏地区支部の役割を考えることである。

千住キャンパスでは東京都支部がブースを確保し、鳩山キャンパスでは埼玉県支部がブースを



構える。学園祭は支部が在校生及びキャンパスを訪れた卒業生に、活動をアピールするいい機会と理解する。訪れた方々はそれらのブースを見て大学と校友会活動を理解されるだろう。さて、今回はこのパンフレットを参考に埼玉県支部の催しを紹介したい。

① 似顔絵コーナー②写真展コーナー

(一般参加の投票＝審査)③囲碁教室④鳩山町協賛「鳩山陶房」による展示会等。以降は日替わりだが⑤卒業生の活躍する県内企業紹介コーナー⑥不動産鑑定士による不動産相談⑦社会保険労務士による起業・就業相談⑧行政書士による相続・遺言相談⑨交通安全体験車(サイト君)⇒この部分は別会場。

実に盛りだくさんの内容に頭が下がる。企画、そしてそれを可能にするスタッフの豊富な陣容。支部長に聞くと「何、ルーチンですから」との言葉、淡々と話されるその態度には、自信がみなぎる。今までの実績がこの言葉になって表れると見た。

今回は4回目の訪問になるので、支部のブースとともに鳩山キャンパスに目を向けるいい機会となった。自然を生かした建物のつくりと配置、神田や千住キャンパスの都市型大学と違った自然と建物の調和には心惹かれるものもあった。卒業生、特に初期の頃の方に聞くと「自然豊かさが逆に通学に障害となることも多かった」との事。



都市型大学しか知らない者にとっては、広いグラウンドやテニスコートは魅力的だが、それなりの苦労もあったようである。学園祭紀行からは離れたが鳩山キャンパスも一見に値する。

ルーチンとして定着するには「時間も人も、の世界」である。しかし、今こそ次を目指し何らかの手を打つべきと思う。「先ず隗より始めよ」この意味をかみしめたい。

6. 編集後記

福嶋 邦夫 会計監査・編集人

千葉県支部だより第27号は間が空きましたが支部長からの総会実施報告、2月の見学会報告、支部会員からの投稿、入学式報告、2025 旭祭レポートなど掲載いたしました。

2025 年も残りわずかとなり年末のお忙しい中、今後とも千葉県支部活動にご協力をお願いいたします。皆様方からの投稿をお寄せ頂く事お願い致します。

来年度の総会に向けての活動が進められております。

繰り返しではございますがどんな記事でも構いませんのでぜひ原稿をお送り頂けるようお願い致します。

令和7年11月20日